

スズキ、2020年3月期第1四半期決算を発表

— 国内での検査体制再構築による減産の影響に加え、インド四輪市場の低迷により減収減益 —

1. 第1四半期決算の業績概況

当第1四半期の業績は、国内での検査体制再構築による減産に加え、インドでの四輪全体市場低迷による販売減少の影響により、減収減益となりました。

具体的な経営成績ですが、連結売上高は9,075億円と前年同期に比べ800億円(8.1%)減少しました。利益面では、営業利益は627億円と前年同期に比べ538億円(46.2%)減少、経常利益は724億円と前年同期に比べ607億円(45.6%)減少、親会社株主に帰属する四半期純利益は405億円と前年同期に比べ454億円(52.8%)減少しました。

2. 各セグメントの状況

四輪事業につきましては、売上高は国内での検査体制再構築による減産の影響に加え、インド、パキスタン、インドネシアでの販売減少や為替円高の影響により8,171億円と前年同期に比べ835億円(9.3%)減少しました。営業利益は売上減少に加え、為替円高、諸経費等増加により546億円と前年同期に比べ548億円(50.1%)減少しました。

二輪事業につきましては、売上高はインド、フィリピンでの販売増加等により656億円と前年同期に比べ13億円(2.0%)増加、営業利益は23億円と前年同期に比べ2億円(7.5%)増加しました。

マリン事業他につきましては、大型船外機「DF350A」の北米を中心とした販売貢献等により売上高は248億円と前年同期に比べ22億円(9.9%)増加、営業利益は58億円と前年同期に比べ8億円(16.5%)増加しました。

所在地別につきましては、日本およびアジアで減収減益となりました。営業利益につきましては、日本で261億円と前年同期に比べ246億円(48.6%)減少、アジアで220億円と前年同期に比べ316億円(59.0%)減少しました。

3. 連結業績予想

連結業績予想につきましては現段階では据置とさせていただきますが、見通しが厳しいことから、今後の動向も踏まえ、新たな予想を発表させていただきます。

(参考…期初予想)

売上高	3兆9,000億円	(前期比 0.7%増)
営業利益	3,300億円	(前期比 1.7%増)
経常利益	3,400億円	(前期比 10.4%減)
親会社株主に帰属する当期純利益	2,000億円	(前期比 11.9%増)

(為替レート) 1米ドル=110円、1ユーロ=125円、1インドルピー=1.58円、
100インドネシアルピア=0.77円、1タイバーツ=3.40円

以上

※連結業績予想については、現時点で入手可能な情報及び仮定に基づき算出したもので、リスクや不確実性を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、さまざまな要因の変化により大きく異なることがありますことをご承知おき下さい。

※実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、主要市場における経済情勢及び需要の動向、為替相場の変動(主に米ドル/円相場、ユーロ/円相場、インドルピー/円相場)などが含まれます。